

社会科(公民的分野)学習指導案

和歌山市立紀之川中学校
教諭 玉井 一人

- 1 日時 平成19年10月30日(火) 第5限(13:25~14:15)
- 2 会場 3年1組教室 男子17名 女子15名
- 3 単元 私たちの生活と経済 市場経済と金融
- 4 単元の構成
 - (1) 市場経済のしくみ・・・1時間
 - (2) 市場と価格・・・1時間
 - (3) 生産の集中・・・1時間
 - (4) 国民経済・・・1時間
 - (5) 金融のはたらき・・・2時間(本時 1/2)
 - (6) 働く人たちの生活向上・・・1時間

5 教材観

情報化社会は私たちの生活様式のさまざまな場面を変革しようとしている。単に情報の発信・伝達や入手だけでなく、流通革命を支え価格革命を起こし、ネットワーク型やカード型の電子マネーを生み出したように経済活動の場面にも及ぶところとなり、私たちの生活に便利さと豊かさをもたらすなど大きな影響を与えている。

このような経済活動の中において生徒たちは働くこと、それに対する対価として賃金を得たり、貯蓄や投資などの行為の主人公になっていないが、消費するという行為は実際に体験していることから生徒たちも消費者という立場では国民経済の中の一員である。本単元では市場経済と金融をできる限り生徒たちの身近な事例を通じて学習させたい。

高齢化社会の到来、バブル経済崩壊後の不況も終息の兆しを見せている昨今、雇用や労働形態についても変化が見られるようになってきている。生きる糧を得るために働くことだけが労働の目的とは言えなくなってきている。そこで、団塊世代の大量退職時代を迎えることに代表される労働について抱える現代社会の諸問題について考えさせるだけでなく、フリーターや契約社員に代表されるさまざまな労働スタイルや労働に対する価値観について「勤労の義務及び権利」「職業選択の自由」という日本国憲法の主旨、労働基本権と労働三法の精神に触れながら学習するとともに、労働について目的について積極的に考える態度を養いたい。

【学習指導要領「社会」における記述】

身近な消費生活を中心に経済生活の意義を理解させるとともに、価格の動きに着目させて経済の基本的な考え方について理解させる。また、現在の生産の仕組みのあらましや金融の動きについて理解させるとともに、社会における企業の役割と社会的責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の問題と関連づけて考えさせる。

6 生徒観

学級の一人一人がわかりあい、認めあえる雰囲気を感じさせる学級である。

自信がないのか「黙って聞き、ノートをとる」生徒が多い中で、一部生徒の積極的な発表によって展開される授業になる傾向にあるため、できるだけ多くの生徒の体験や考えを発表させるように心がけている。

日頃の授業で生徒たちの語彙の少なさを感じている。可能な限り平易な言葉での表現を心がけるとともに、機会を見つけ読書を勧めている。

7 単元の目標

- (1) 企業への資金供給のための金融の役割について銀行を通じて理解する。
- (2) 中央銀行の役割について理解する。
- (3) 銀行を通じて国民経済の中に生きる一人の人としての役割、自覚や責任を感じさせたい。

8 指導計画

指導内容	活動内容	留意点
商品購入の代金支払いの方法	自分や家族が商品購入の代金支払いをどのような方法で行っているかについて発表する。	自らの経験から考えさせたい。
金融機関（普通銀行・市中銀行）の役割	銀行はどのような利用のされ方をしているのだろうかを具体的に考え、発表する。 「企業としての銀行」を理解する。	外貨との交換については貿易の単元で学習する。 〔評価〕市中銀行の役割と利潤について理解できたか。
中央銀行（日本銀行）の役割	中央銀行（日本銀行）と普通銀行の違いと中央銀行の果たす役割について理解する。 1 銀行の銀行 2 政府の銀行 3 発券銀行	〔評価〕中央銀行の役割について理解できたか。 (1/2)
経済政策（金融政策）	通貨価値の安定させるための政策について考える。	発展的な課題として (2/2)

【ご高評】